

二酸化炭素排出量について(2018 年確報値・2019 年速報値)

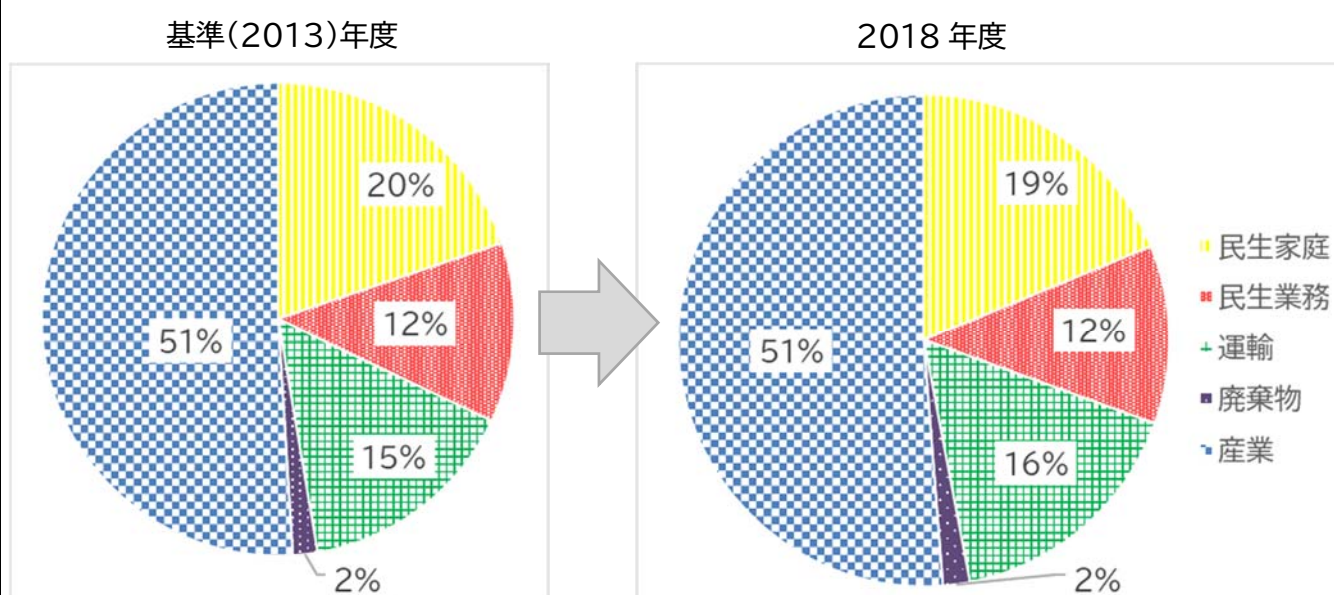
(1) 2018 年度(確報値)と 2019 年度(速報値)の二酸化炭素排出量

表 2018 年度の二酸化炭素排出量(速報値)と基準年度、前年度との比較

年度 部門	2013 年度 排出量 【基準年度】	2017 年度 排出量 【前年度】	2018 年度			2019 年度 排出量 (速報値)
			排出量	基準年度比	前年度比	
民生家庭	647.1	647.8	578.7	-10.6%	-10.7%	546.8
民生業務	400.3	363.4	359.4	-10.2%	-1.1%	329.9
運輸	499.3	493.2	491.5	-1.6%	-0.3%	486.6
廃棄物	55.1	53.2	53.4	-3.1%	0.4%	53.5
産業	1666.3	1636.5	1541.0	-7.5%	-5.8%	1586.0
合計	3,268.0	3,194.1	3,024.0	-7.5%	-5.3%	3,002.7
基準年度比 【合計】		-2.3%	-7.5%			-8.1%

2018 年度は民生家庭と産業部門をはじめとして排出量が減少した。

図:市域の二酸化炭素排出量の部門割合【2013(基準)年度・2018 年度】



市域の二酸化炭素排出に占める各部門の割合には大きな変化はない

(2) 前年度からの増減理由

表 前年度からの増減理由

部門	増減理由
民生家庭	・ 電力の二酸化炭素排出係数の低下 ・ 冬季の電力消費量の減少 ※ 前年度と比べて冬の気温が高かった
民生業務	・ 電力の二酸化炭素排出係数の低下
運輸	・ 軽自動車等、燃費の良い自動車保有台数の増加
廃棄物	・ 人口の増加 ⇒ ごみの排出量の増加
産業	・ 電力の二酸化炭素排出係数の低下 ・ 県全体と製品出荷額に占める本市からの出荷額の割合が減少したため【出荷額自体は前年度より増えた】

【参考】 2019 年度までの二酸化炭素排出量の推移

表 基準年度から 2019 年度の二酸化炭素排出量の推移

